平成23年度

事業計画書

並びに

収支予算書

自 平成23年 4月 1日

至 平成24年 3月31日

財団法人癌研究会

平成23年度事業計画

はじめに

財団法人癌研究会は、先端的がん研究と先進的がん医療の推進を通じて、20世紀におけるがんの克服に大きく貢献してきた。現在、高齢化社会を迎える日本では、今後もがん患者の増加が予想され、21世紀のがん研究・がん医療において、癌研究会のさらなる貢献が期待されている。癌研究会は、この期待に応えるべく、平成17年に江東区有明の地に新施設を建設し、移転を完了した。しかし、この新築・移転に費やされた大きな費用の負担は、癌研究会の新たな船出にとって大きな障害となり、平成20年、当財団は財政面での大きな危機に直面することとなった。

そのため本財団では、銀行団との協議のもと平成21年度より、財政の健全化を目的として、「財政基盤確立に向けた中期計画」を策定し、これを着実に実行してきた。その結果、平成22年の決算見込みでは、当期の正味財産増加額が13億6千8百万円となるまでになり、当該中期計画を大きく上回る財政健全化を達成している。

平成23年は、この財政健全化をさらに進めるため、着実に各種事業を推進するとともに、21世紀におけるがん研究・がん医療の推進において、「世界に冠たる癌研」として責務を果たして行くための中長期計画の策定を行う年となる。なお、当財団は、国の公益法人制度改革に対応するため、平成22年12月に、内閣府に対して新公益法人移行の申請を行っており、平成23年度は新公益法人として以下の事業を推進する予定である。

(1) 事業推進の基本方針

平成23年の事業推進においては、財政基盤の更なる健全化が基軸となる。そのため、収支予算の大きな部分を占める病院事業においては、7対1看護体制を始めとする医療の質を維持しつつ、DPC包括評価制度の導入など新たな医療環境への対応を行いながら、実施手術数の3%増を目途として、医療事業全般の拡充を図る。これにより、特許料収入等の減少が見込まれる状況下においても、本事業計画の実施による正味財産増加額は、昨年度と同等の13億8千万円となる。

(2) 研究部門

研究所、癌化学療法センター、ゲノムセンターから構成される研究部門は、平成23年度も、癌研有明病院との緊密な連携を維持しながら、有明移転以来、特に力を入れてきた、橋渡し研究を始めとする「がん医療の創造に向けた研究」を強力に推進する。

研究所においては、新たな研究領域で実績を有する研究者を招聘し、部長の他大学への転出等により休止中の二つの研究室の立ち上げを図ることで、先端的ながん研究分野の進展に対応し、研究を推進する。また大型の公的研究資金を獲得した若手研究者に、研究所

内で独立した研究者として研究室（従来の研究部ではなく、プロジェクトと称する）を運営する機会を与えることにより、次世代のがん研究をリードする若手研究者の育成を目指す。癌化学療法センターは、新規分子標的の探索を通じて次世代抗がん剤開発への貢献を、ゲノムセンターは豊富な臨床検体の解析を通じた、がんの個別化医療の確立への貢献を目指す。なお、当該研究分野は、ともに先端的な研究基盤を必要とするため、公的な大型研究支援の獲得を目指す。

（3）病院部門

癌研有明病院は、有明移転以来、Cancer Boardを始めとする先進的な組織運営により、各センターそして各科ともに、国内をリードするがん医療を推進する体制を確立した。特に、各種のがん手術に関しては、昨年度、新たに手術室1室が増設された効果もあり、国内で一番の症例数を誇っている。

平成23年度、癌研有明病院は、現在の臓器別チーム医療体制を維持しつつ、がんの早期発見から難治がん対策まで、シームレスながん医療の提供に努める。その柱となるのは、先進的で質の高い手術、最新の抗がん剤治療および最先端の放射線治療の提供、そして、それらを駆使する集学的治療の実施である。さらに、治験を始めとする臨床研究の推進を通じた創造的医療の開発や、外国人患者の積極的受け入れによる国際化の推進も重要な課題となる。特に、多くの待機患者の要望に応えるためのがん手術症例の拡充は、本財団の財政基盤の確立にも大きく貢献することが期待される。癌研有明病院は、これらの事業の推進を通じて、一昨年に策定された8項目に亘る「2013年までに到達すべきゴール」の達成を目指す。

また、癌研有明病院は、平成23年4月にDPC包括評価制度の導入を行うことが決定しており、さらに厚生労働大臣に対して特定機能病院としての承認を申請し、その審査も継続中である。加えて、本年度中に第2回目に当たる病院機能評価の受審も予定しており、こうした新たな医療環境への積極的な対応により、新公益法人として、がん患者の皆さまに対して、更に高質ながん医療の提供を行う。

研 究 所

先進的な生命科学の推進を通じて、がんの発生と進展の分子機構の解明を進める。また、癌研有明病院との緊密な連携を通じて、ヒトがんの特性と個性を解明し、次世代の革新的ながん予防・がん医療の開発に資する。

以下、各研究部の研究計画の概要を示す。

生 化 学 部

細胞生物部

1. 遺伝子変換マウスを用いたヒト発がん機構の解明
 - a. RAS 遺伝子活性化により生じる発がん機構と新たな抑制制御系の同定
 - b. APC 遺伝子不活性化により生じる消化管腫瘍の発生機構
 - c. SHH シグナル活性化による表皮基底細胞腫と小脳髄芽腫の発生機構
 - d. DNA 複製・修復異常による発がん機構
2. マウス遺伝学を用いた発癌研究
 - a. 消化管発癌を抑制する遺伝子群の単離・同定
 - b. 個体内での遺伝子変異誘導の制御メカニズム解析

病 理 部

1. 形態と遺伝子発現、ゲノム情報の統合の上に立つ癌の悪性度診断
2. 放射線・抗癌剤の効果判定の病理学
3. 内視鏡採取標本、縮小手術標本の断端診断学
4. 癌、大腸癌、肺癌などを主体とするの縮小手術の適応条件
5. 肺癌、泌尿器科癌乳癌、消化器癌、頭頸部癌などにおける新規転座遺伝子の検出
6. 宮頸部、頭頸部の腫瘍における HPV の関与とそのリスク評価
7. 綿曝露、喫煙、Werner 症候群、HNPCC など、環境因子から遺伝性因子までを視野に入れた高発がん要因の研究
8. 光機能性プローブによる in vivo 微小癌検出の試み - 特に消化器癌を中心に
9. Computer-aided pathological diagnosis 実現の試み
10. シグナル伝達系と組織像をつなぐシステム病理学の試み
11. 肺がん、特に腺癌、小細胞癌を対等とした、腫瘍細胞のコピー数の解析を癌の原因、治療感受性、分類との相関

遺伝子診断研究部

1. 乳癌発生に関する新規遺伝子の同定と機能解析
2. BRCA1/2 変異乳癌における PARP-1 阻害剤の抗腫瘍活性メカニズムの解明
3. BRCA2 遺伝子の中心体における新規機能の解析

所長室付物理グループ

1. 高精度画像誘導放射線治療の質的保証に関する研究
2. 医学物理士教育に関する研究

発がん研究部

1. マウス挿入変異システム(トランスポゾン及びレトロウィルス)を用いた発がん分子機構の解明
2. 血液・骨軟部腫瘍におけるキメラ型転写因子の機能解析
3. 骨軟部腫瘍モデルマウス系の確立と骨軟部腫瘍の起源の解明
4. Hox 及び Meis による転写制御機構を中心とした白血病発症分子経路の解析
 - a. Meis1 による転写制御機構の解析と標的遺伝子の同定
 - b. Hox/Meis の協調因子 Trib ファミリー遺伝子の機能解析
 - c. C/EBP 転写因子の機能解析
5. 染色体転座モデルマウスを用いた発がん研究

蛋白創製研究部

機能性人工タンパク質を用いたがん診断研究

- a. がん細胞センシングナノデバイスの開発
- b. 稀少がん細胞補足装置の開発
- c. がん微小環境関知型ナノ材料の創製

機能性人工タンパク質を用いたがん免疫研究

実験病理部

染色体の構築に関する研究

- a. 分裂期キナーゼによる染色体凝縮の制御機構
- b. Smc 複合体による姉妹染色分体の形成機構

染色体の動態制御に関する研究

- a. 分裂期キナーゼ機能不全がもたらす染色体動態異常の研究

- b. 染色体分離の瞬間を規定するメカニズムの解明
- c. 染色体分離酵素セパレーズ活性の可視化とその制御機構

がんゲノム研究部

1. 個別化医療実現のための生物情報研究
 - a. 日本人癌関連統合データベースの更新と個別化医療に向けた応用解析
 - b. 超次元 OMICS データに対する情報解析技術・解析システムの開発と改良
 - c. データマイニングとテキストマイニングを融合した情報解析技術の開発と臨床データに対する新技術を用いたがん関連遺伝子探索への応用
2. ゲノム情報・遺伝子発現情報に基づく治療効果・副作用予測システムの改良と臨床データへの応用
質量分析装置から得られる低分子・タンパク発現情報の新規解析技術の開発

がん生物部

細胞老化の作用機序の解明

- a. 細胞老化を誘導するストレスシグナルの同定
 - b. 細胞老化の誘導および維持に係わる分子メカニズムの解明
- 細胞老化の生体内での役割の解明
- a. 細胞老化の癌抑制および発癌促進における役割の解明
 - b. 細胞老化と固体老化の関係解明
 - c. 肥満に伴う炎症反応と細胞老化の関係解明

分子標的病理プロジェクト

1. 固形癌における病因及び分子標的の新規同定 (Project Fusion)
 - a. 新規 ALK 融合遺伝子の同定及び診断法の開発
 - b. その他の新規キナーゼ融合遺伝子の同定及び診断法の開発
2. リンパ腫の病態解明
 - a. 新規疾患の発見と概念提唱
 - b. 分子標的, 予後因子の同定
3. 国民に対する上記知見の普及・啓蒙活動

癌化学療法センター

当センターは、がんの特異的な分子標的の機能を抑制あるいは促進する新しい抗がん剤の開発、有効で安全な治療法の開発、薬剤感受性と耐性、副作用等、がん化学療法に関する基礎的、臨床的研究を行う。また、抗がん剤の分子薬理作用研究ならびにがん化学療法関連ゲノム、プロテオーム研究、がんの遺伝子治療法の基礎的研究、を行う。他方、国際がん化学療法シンポジウムの開催、日本がん分子標的治療学会の運営、抗悪性腫瘍薬開発フォーラムの開催、国内外の化学療法に関する情報の交換を行い、日本の化学療法研究の推進に貢献する。

各部門における事業概要は次のとおりである。

基礎研究部

1. がん転移促進に関与する血小板凝集促進因子Aggrusを標的とした阻害剤の創製研究
2. がん転移促進遺伝子 Merm1 の機能解析研究
3. 幹細胞様がん細胞の同定と抗がん剤耐性化分子機構の解析研究
4. 生存増殖シグナル伝達機構を標的とした分子標的治療法開発に向けた基礎研究

分子薬理部

1. がん細胞インフォーマティクスに基づく抗がん剤の分子薬理研究
2. 新規抗がん剤の探索と薬効評価に関する研究
3. PI3キナーゼを標的とする新規分子標的薬の開発研究
4. がん化学療法に関わるゲノム研究

分子生物治療研究部

1. テロメアを標的としたがん治療法の開発研究
2. ポリADP-リボシル化酵素の機能解析とがん治療への応用
3. 脂質代謝を標的としたがん治療法の基礎研究
4. 前立腺がん再発・悪性化機構の解析と克服薬の探索

ゲノム研究部

1. 遺伝子発現解析による分子標的薬剤の反応性診断研究
2. がん微小環境選択的な分子標的治療法の研究

臨床部

1. リンパ腫、骨髄腫等造血器腫瘍の分子標的治療および抗体療法に関する研究
2. 乳がん、消化器がんなど固形がんに対する新しい治療戦略の研究
3. バイオイメージングによるがん細胞の観察
4. 骨転移の機序とその治療に関する研究

遺伝子治療研究室

1. がん化学療法の有効性と安全性を高めるための耐性遺伝子療法の研究と開発（臨床部、化学療法科との共同研究）

制癌剤情報室

1. 国際癌化学療法シンポジウムの実施
2. 日本がん分子標的治療学会の運営
3. 抗悪性腫瘍薬開発フォーラムの開催
4. 日米両国のがん化学療法に関する情報の収集と交換

ゲノムセンター

ゲノムセンターでは、ゲノム科学技術を駆使することにより、がんの体系的理解と個人に最適ながん医療の実現を目指す。具体的には、「高機能抗体創製技術開発プロジェクト」として、次世代の個別化医療に応用しうる抗体の創製、また、橋渡し促進技術開発の先導研究として、「抗がん剤治療を革新する有効性診断技術の開発」を行う。

(1) 新機能抗体創製プロジェクト

臨床研究グループ

1. 新機能抗体創製プロジェクトにおける臨床計画の立案
2. 対象患者の選定、臨床材料採取
3. 各種臨床情報、病理学的情報、薬理情報等の収集、解析

抗体機能検定グループ

1. 高機能抗体の効率的な産生のための迅速なノックアウトマウス作製システムの開発
2. ヒトがん組織、培養細胞、モデル動物を用いた機能抗体の体系的評価システムの確立
3. 創製した抗体の体系的機能評価

乳腺ゲノム解析グループ

1. 先進的遺伝子発現解析による治療抗体標的分子の探索
2. 遺伝子発現プロファイリングによる有効な抗癌剤選択システムの開発
3. ゲノム網羅的解析情報を基盤とする乳癌のオーダーメイド医療の開発
4. トランスフェクションアレイによる抗癌剤感受性規定遺伝子の機能的スクリーニング

プロテオミクス解析グループ

1. 質量分析装置を用いた、新規診断マーカーおよびシステムの開発
2. 顕微質量分析装置の開発のための基盤情報の収集、解析
3. 抗体標的分子としてのがん特異的活性化酵素、複合体探索システムの開発

標的分子探索グループ

1. 先進的発現プロファイリングによる抗体医薬標的分子の探索
2. ゲノムシーケンス解析による抗体医薬標的分子の探索
3. 階層的な分子情報の高次利用による抗体医薬標的分子の探索

情報解析グループ

1. がん患者および癌組織の遺伝学的情報の蓄積とデータベース構築
2. がん患者の各種臨床病理学的情報の蓄積とデータベース構築
3. 新規に開発したアルゴリズムを用いた高機能抗体の候補分子探索
4. がん患者の治療感受性や副作用を規定する遺伝子の同定と予測モデルの開発

(2) 薬剤反応性プロジェクト

臨床研究グループ

1. 「抗がん剤治療を革新する有効性診断技術の開発」プロジェクトにおける臨床計画の立案
2. 対象患者の選定、臨床材料採取
3. 各種臨床情報、病理学的情報、薬理情報等の収集、解析

多型解析グループ

1. ゲノム情報に基づく化学療法剤感受性および副作用の発現強度を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定
2. ゲノム情報による放射線感受性および副作用の発現強度を規定する遺伝子および遺伝子多型の同定

発現解析グループ

1. 精度の高いトランスクリプショナル・バイオマーカーの同定技術の開発
2. トランスクリプショナル・バイオマーカー実用化のための汎用性の高い測定技術の開発

有明病院

病院全体としての本年度の重要課題は、引き続き、診療・学術レベルの向上、運営の効率化・合理化、人材の確保・育成、院内の環境整備、職員の勤務態様の改善とモラルの向上・コンプライアンス遵守精神の向上などであり、今後とも積極的に進めてゆく。

診療部門における根幹をなす取り組みは、引き続き臓器別チーム医療である。そして癌の早期発見から難治癌対策まで、癌に対するシームレス医療の継続発展に努める。特に精度の高い検診の実施、質の高い手術の提供、最先端の集学的治療の実施、新薬導入による新しい化学療法の進歩を目指し、一方で緩和医療の実践と普及に努める。

有明移転から6年が経過し、一昨年度からの経営危機はひとまず回避されたが、今年秋から元本返済が開始予定である。当会の中では、病院部門の収支にかかわる部分が大きいため、病院部門の一層の収支改善の努力が求められている。また事務局体制は大幅に改善刷新されてはいるが、今後公益財団法人化を前提として、新しいがん研究会有明病院の体制を構築してゆかねばならない。しかし、新公益法人となっても、有明病院の目指す方向はこれまでと異なるものではない。

昨年策定した「2013年までに到達すべきゴール」の達成を目指して、病院として、又各部門としてアクションプランの推進が重要であり、可能な部分は数値目標化して推進を図って行く所存である。

事業計画としてその大項目を列挙すると以下の通りである。

I. 2013年までに到達すべきゴール

1. 創造的な医療の開発
2. 患者中心のチーム医療の実践と支援体制の確立
3. 安定した財政基盤の確立
4. 医療環境の変動に対応した効率的な病院経営
5. 病院組織の改善
6. 魅力ある職場づくり
7. がん専門病院としての国際化の推進
8. 情報公開と visibility(認知度)の向上

II. 具体的な実施計画項目として以下を挙げる。

1. 創造的な医療の開発

(1) 臨床研究センターの充実による研究所とのプロジェクト研究の推進

がん眼鏡プロジェクト、ペプチドワクチンプロジェクト、抗がん剤感受性試験など
研究助成金給付、トラベルグラント設立、データマネジャー配置等による体制強化

(2) 先進医療取得体制強化

臨床検査Ⅲ部、臨床各科からの先進医療の開発促進

(3) 難治癌プロジェクトを支える体制整備

放射線治療、手術部門、遺伝子診断部、遺伝子診療センター、内視鏡診療部門などの協力体制整備

プロジェクト内容の再検討、データマネジャーの配置など支援体制の強化

2. 患者中心のチーム医療の実践と支援体制の確立

(4) 臓器別チーム医療の実践と更なる進歩

Cancer Board の活動強化、職種間チーム医療の推進

(5) 全人的医療の中でのがん診療の推進

合併症を持つがん患者に対する安全ながん医療の提供強化、特に循環器疾患・脳神経疾患・重傷糖尿合併患者などに対する病-病連携体制の推進

(6) 医療支援センターの充実

患者・家族への精神的、社会的支援のサポート充実、病-病連携、病-診連携の推進による円滑な後方支援体制の推進

(7) 緩和ケア教育の推進、普及

都道府県がん診療連携指定病院の研修事業の推進、特に緩和研修の研修推進に力を入れ、がん診療に携わる医師への緩和ケア教育の推進・普及

(8) 緩和ケアチーム活動の拡充

早期からの緩和ケア提供によるがん治療の円滑な継続支援の促進

(9) 服薬指導の推進

全病棟での服薬指導の導入、外来治療センターでの服薬指導の増強

(10) 初診から治療開始までの期間の短縮

CT 検査枠の増加、内視鏡検査室の稼働拡大など関連検査枠の効率化と拡大

(11) がん情報コーナーの充実

書籍購入など経費の予算化

(12) 外来患者の診察待ち時間の短縮

より正確な予約管理と、外来枠の増加

長期経過観察患者の健診移行の推進による外来新患枠の増加

(13) リハビリテーション部門の整備による癌治療の急性期回復援助の推進

各種運動器リハビリ、頭頸部術後の発声・嚥下リハビリ、呼吸器リハビリ、乳癌、子宮癌などの術後リンパ浮腫リハビリなど

3. 安定した財政基盤の確立

(14) 1室増設した手術室の稼働の向上、空き枠利用の推進

対前年度 3%の手術件数増加を目標、関連諸部門のそれに見合った増強対策
外科系各科の手術待ち期間、手術待ち患者数、手術件数を関連させた管理

(15) 健診センター機能の増強

検診項目の合理的整理、検査枠増設、特に新規健診希望者の待ち期間短縮

4. 医療環境の変動に対応した効率的な病院経営

(16) DPC 導入開始に際しての対策強化

WG による対策推進と職員教育

ジェネリック医薬品の導入促進

(17) 医師作業補助者の増員による医師業務の軽減

外来患者の予約獲得、各種診断書記入など医師業務の軽減のための代行促進

(18) 電子カルテ更新準備作業の開始

本年5月からの新仕様書に基づく入札開始、以後本格的な更新作業による円滑な更新

(19) Balanced Score Card システムによる目標設定と業績評価の推進

診療各科の収支の把握と透明化、その他の目標と実績に応じた業績管理

5. 病院組織の改善

(20) 病院事務局(仮称)の新設による有明病院における事務部門の合理的運営の促進

(21) 医療安全体制の強化

リスクマネジメント室の組織変更による、医療安全管理室、院内感染対策室の設置

6. 魅力ある職場づくり

(22) がん専門看護師、各種認定看護師の特性を生かした看護体制の構築

(23) 看護師による静脈ルート確保業務の拡大

(24) 看護部門・薬剤部部門からの 4 週 8 休体制の導入

合理的な勤務体制の構築、看護師雇用障害要因の改善

(25) 人事考課の反映する評価制度の構築と、それによる職員モチベーションの向上

7. がん専門病院としての国際化の推進

(26) 国際委員会の設置と国際交流の増進

外国人患者に対する日本の高度医療の提供要望の増加への対応強化

コメディカル、事務部門を含む人材教育の推進

8. 情報公開と visibility の向上

(27) ホームページの全面的刷新

- (28) 各種講演会の積極開催
連携病院に対する当院主催の講演会、一般市民公開講座、医師会主催講演会への講師としての参加など

9. その他

- (29) 院内癌登録体制の推進とフォローアップ体制の強化
2009年度以降症例の遅滞なき登録、全がん協への既提出データの2000年分まで遡る新版への更新実施
全がん協、都道府県がん診療拠点病院連絡協議会を通じて、住民票、戸籍謄本閲覧の簡便化と無料化の促進
- (30) 病院機能評価受審準備と受審
問題点の洗い出しと対策推進、改善事項の遅滞なき改善施行による審査合格
- (31) 特定機能病院の呼称認可に向けての院内体制整備の推進
特に医療安全体制と院内感染対策の強化
- (32) 院内各種講演会の積極的推進
学術講演会、グランドカンファレンス、M&Mカンファレンス、各種委員会主催講習会、各種院内発表会など
- (33) 職員全員参加型講習会の未受講者把握と受講促進
IT管理の確立と未受講者への教育促進
- (34) 腫瘍救急を中心とした救急患者の受け入れ推進
都内からの救急車の受け入れ実績を、夜間・休日分で300台を目指す
- (35) 災害拠点病院として役割分担と体制の整備
江東区医師会と共同して、広域災害時の後方支援機能の内容確認と拡充、連携体制構築
- (36) ボランティア活動の充実
新コーディネーターの業務習熟に応じて、ボランティア新規募集推進と活動の強化、
- (37) 癌研有明友の会との連携強化
- (38) 職員満足度調査、患者満足度調査の継続実施
その結果をふまえた部門毎改善の推進
- (39) その他

【 疾患別癌診療部門 】

呼吸器センター

○内科・外科共同

1. 放射線科と共同しての肺癌の集学的治療
2. CT による肺野型微小肺癌の発見と確定診断法の確立
3. すりガラス様陰影を呈する病変の経過観察方針の確立
4. 大細胞神経内分泌肺癌の術前診断方法の確立
5. 大細胞神経内分泌肺癌の治療法の研究
6. プラチナ製剤を含む術後補助療法に関する安全性の研究
7. 縦隔リンパ節転移に対する EBUS による低侵襲診断の確立
8. 研究所と連携した肺癌の遺伝子研究
9. 悪性中皮腫切除可能例に関する、集学的治療
10. 切除可能胸壁浸潤肺癌に対する集学的治療
11. 病理病期 I 期 (T1>2cm) 非小細胞肺癌に対する術後化学療法の確立
12. 局所進行非小細胞癌を対象とした術前導入療法の臨床第 II 相試験 (ベバシズマブ併用)

○呼吸器内科

1. 肺癌治療における標準的化学療法の確立のための臨床研究の充実
 - ・ 未治療進行非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌) III B, IV 期または術後再発症例に対する Cisplatin(CDDP) と Pemetrexed(PEM) 併用化学療法, および Cisplatin(CDDP) と Pemetrexed(PEM) に Bevacizumab 併用化学療法
 - ・ 既治療進行非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌) に対する Bevacizumab, Docetaxel 併用化学療法
2. 局所進行非小細胞肺癌に対する標準的治療の確立に関する研究
3. 高齢者非小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
4. 適切な化学療法を行うための抗癌剤の代謝能および薬物動態の検討
5. EGFR 阻害剤耐性症例に対する治療法の確立を目指した臨床研究
 - ・ エルロチニブ既治療非小細胞肺癌に対する塩酸イリノテカン+エルロチニブ併用療法の第 I-II 相試験
6. 限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
7. 進展型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究
8. 肺癌化学療法の個別化治療に向けた基礎的検討
 - ・ 活性型 EGFR 遺伝子変異を有する非小細胞癌に対する治療法の開発
 - ・ ALK-肺癌に対する治療方法の開発

9. 手術不能もしくは術後再発胸腺腫に対する治療法の確立に関する研究

○呼吸器外科

1. 肺野型微小肺癌に対する根治的縮小手術法の確立と標準化
2. 局所進行肺癌に対する、集学的治療としての外科療法の検討
3. 術中胸腔洗浄液の播種と関連する遺伝子学的の研究
4. 異時多発肺癌に対する外科療法
5. 転移性肺腫瘍に対する原発巣の特性を加味した外科療法
6. 胸腔鏡下肺切除の適正な適応と、安全性の研究
7. 研究所と連携したイメージング技術の臨床応用(臨床研究センター)
8. 肺野末梢小型肺癌に対する肺葉切除と区域切除の臨床試験
9. 胸部薄切CT所見に基づく肺野型早期肺癌に対する縮小手術
10. ICG を利用した navigation surgery

消化器センター

○消化器内科

(消化管グループ)

1. 内視鏡的全層切除の開発 ペンタックス社と共同開発 進行中
2. NBI拡大観察所見と組織像の立体構築 論文作成中
3. 早期胃がん範囲診断困難例におけるNBI観察
4. 微小癌におけるNBI所見と組織像の対比
5. 早期胃がんのESDにおける未分化型癌適応拡大と増殖帯進展に関する研究
6. 早期胃がんのESDにおける組織混合型の取り扱い
7. ピロリ菌除菌による微小胃癌発見能の向上性の検討
8. 食道異形上皮における拡大内視鏡観察と組織像
9. 胃癌術後の通過障害に対する、漢方薬(茯苓飲)による内科的治療法の検討
10. 抗癌剤の副作用による上下肢の知覚異常(しびれ)に対する、内科的治療法の確立
11. 栄養サポートチーム(NST)による、頭頸部癌の治療成績向上の検討
12. 抗癌剤感受性試験

(肝・胆・膵)

1. 膵癌、胆道癌、肝癌の化学療法、IVR の多施設臨床試験
2. 膵癌の免疫療法併用化学療法の臨床試験

3. 切除不能肝細胞癌に対するエピルビシンまたはドキソルビシン/リポドールを用いた TACE の第Ⅱ相臨床試験(日本・韓国共同試験)
4. 切除不能肝細胞癌に対する DSM を用いた TACE の有効性の検討
5. 転移性肝癌に対する DSM を用いた TACE の有効性の検討
6. 大腸癌肝転移に対する低容量 CDDP+5FU 動注化学療法の有効性の検討

(上部消化管)

1. NBI拡大内視鏡を用いた未分化型癌粘膜内浸潤度との対比
2. NBI拡大内視鏡を用いた早期胃癌、SM癌の診断
3. NBI拡大内視鏡を用いた表在型バレット食道がんの診断
4. 胃癌術後患者における食道バレット粘膜進展の検討
5. バレット食道柵状血管観察時の通常電子内視鏡所見とNBI拡大内視鏡所見の差異の検討
6. 早期胃がんESD後異時多発癌における背景粘膜の検討
7. NBI拡大内視鏡を用いた胃底腺領域における退色病変の検討
8. 進行胃癌術後患者に対する抗癌剤感受性試験
9. 胃癌術後患者の QOL 改善のための漢方薬の有用性の検討

(肝・胆・膵)

1. 肝細胞癌に対する DSM-TACE の治療効果の検討
2. 原発・転移性肝癌に対する動注化学療法の有効性、安全性の検討、最適集団の探索
3. Child A、HCC に対する TACE から Sorafenib への早期移行妥当性の検討
4. Clinical M0 の浸潤性膵管癌における遠隔転移出現と治療開始前 CA19-9 との関連の検討年度
5. 進行・再発胆膵癌に対する S1・CDDP 療法の feasibility 試験
6. 新規 TACE のレジメン開発
7. 膵癌術後患者の QOL 改善のための漢方薬の有用性の検討

(院外他施設との共同研究)

1. SM-11355 の肝細胞癌に対する臨床試験(第Ⅲ相)ー多孔性ゼラチン粒併用によるエピルビシン塩酸塩を対照薬とした並行群間比較試験
2. GEM 耐性膵癌に対する S-1 療法と SOX 療法の無作為化比較試験。
3. 進行肝細胞癌(HCC)患者を対象に、linifanib (ABT-869)とソラフェニブの有効性及び忍容性を比較する非盲検無作為化第Ⅲ相試験
4. 切除不能進行胆道癌及び再発胆道癌に対する OTS102 とゲムシタビン塩酸塩併用の第Ⅱ相臨床試験

5. JCOG0805: 進行胆道癌を対象としたゲムシタビン+S-1 併用療法と S-1 単剤療法のランダム化第Ⅱ相試験
6. 初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験)
7. 進行肝細胞がんに対するソラフェニブの第Ⅱ相臨床試験
8. JCOG PC909: 局所進行膵管癌に対する S-1 併用放射線療法における導入化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験
9. 胆道がん切除後 S1 補助療法の feasibility study

○消化器外科

・総論

1. 患者の多様性に応じた集学的治療システムの構築
2. 消化器癌手術の合併症対策の推進
3. 消化器癌再発の病態解析と対策
4. 消化器癌に於ける緩和医療の活用
5. 腹腔鏡下手術の適応拡大
6. 内視鏡外科技術認定医の育成
7. 消化器癌データベースの整備
8. 手術データベースへの参画
9. 日本分子標的治療学会の開催

(上部消化管)

食道癌

1. 食道癌における鏡視下手術の導入
2. 術前化学療法の有用性に関する研究
3. マイクロアレイなどを用いた放射線化学療法効果予測の確立
4. 早期食道癌に対する EMR+CRT などの低侵襲治療の開発
5. PET-CT による化学療法の効果判定の研究

胃 癌

1. 腹腔鏡下手術と内視鏡治療の併用による新しい胃癌治療法 (Laparoscope and Endoscope Combination Surgery) の普及－研究会の開催
2. 腹腔鏡下胃手術の普及のためのトレーニングシステムの開発
3. 開腹手術の指導のための研修会の開催
4. 全国規模臨床試験への積極的関与

5. 高度進行胃癌、特に CY(+)例に対する周術期化学療法の開発
6. 早期胃癌の機能温存手術における機能解析
7. 転移の可視化に関する研究(研究所と共同研究)

(下部消化管)

大腸癌

1. 直腸癌に対する機能温存手術の推進
2. 大腸癌の肝転移の危険因子の解析
3. 直腸癌に対する術前放射線化学療法の効果解析
4. 大腸早期癌の増殖と進展に関するゲノム解析
5. 腹腔鏡による側方転移郭清技術の確立
6. 進行再発大腸癌に対する手術を含めた集学的治療の研究
7. 大腸術後 Surgical site infection の予防法の確立
8. 大腸癌診療における PET の意義に関する検討

(肝・胆・膵)

1. 膵切除の際の膵離断法と合併症に関する多施設共同研究
2. 腹腔鏡補助下肝切除、および膵切除の推進
3. 血管合併切除を伴う肝切除術式の開発
4. 大腸癌肝転移に対する術後補助化学療法＋肝切除に関する研究
5. 大腸癌肝転移に対する術前化学療法に関する研究
6. 膵癌に対する外科切除後補助化学療法の有用性に関する研究
7. 胆道悪性腫瘍に対する術後補助化学療法に関する研究
8. 肝切除における造影超音波の有用性に関する研究
9. 肝胆膵外科における 3D シミュレーション画像システムの導入

レディースセンター

○乳腺科

・研究計画

1. 非照射乳房温存療法の長期予後の解明と同側乳房内局所再発症例の検討
2. DCISに対する温存手術の予後調査と解析
3. センチネルリンパ節生検後の上肢浮腫に関する調査研究 1年後データの集積と検討
4. 石灰化マンモトーム生検、経乳管内視鏡生検における病理結果と長期予後に関する研究
5. アロマターゼ阻害剤アナストロゾールの至適投与期間、長期投与による有害事象を巡る比較

試験の継続実施(NSASBC05 試験)と全国への試験参加への呼びかけ

6. 術前内分泌療法(NEOS 試験)のデータ集積と治療効果と判定に関する研究
7. 術前化学療法症例における画像診断と組織との対比より、適切な切除の方法を探る
8. 当院における術前化学療法症例のまとめと結果の公表
9. 超音波機器を用いたスクリーニング動画像から異常影を自動検出するための共同研究
10. 超音波画像における等エコー病変の検出とその病理結果の検討
11. 遺伝性乳癌の実態把握のための高リスク群に対する家系図制作のための試案作成
12. 遺伝性乳癌の診断とその後の対応に関する研究および院内整備

・診療システム改善計画

1. 乳腺センターとして定期的な学術委員会を開催し、研究テーマの設定、学会、論文発表などを科として援助する。
2. 軽症乳癌患者、良性病変確定診断後のフォロー患者に関する地域連携病院を独自に設定し、連携を推進する。
3. 診療の統一化、センター内での治療方針、診療対応について常にコンセンサスを確認し、マニュアルとして文章化する。マニュアルの確認、更新作業を行い、徹底する
4. 乳癌認定看護師に外来診療と入院診療との橋渡しとしての役割を与え、また病棟と外来看護師の交流を積極的に行い、病棟と外来との継続看護の充実を図る
5. MRIでのみ指摘される病変に対して、MRIガイド下生検が院内で実現するよう、各方面に働きかける。
6. 乳腺外来のブース拡充と全員参加による待たせない効率的な外来運営を図る
7. 地方で乳腺専門医を目指す若い医師のための短期研修コースを年2回に実施する
8. 乳癌専門医、専門看護師をめざす者に対する教育研修の場としてアピールし、研修希望者をレジデントや職員以外で受け入れるシステムを構築する。また3年以上の研修コースを設けて、レジデントを指導する準スタッフの制度を導入する。

○婦人科

・診療上の課題

1. 婦人科がんの手術数日本一を維持する
 - ・1ヶ月の手術件数 80-85 件、がんの根治手術 40-45 件をめざす
2. レディースセンター婦人科外来のスムーズな運営
 - ・再発がんの早期診断と早期治療を目指す
 - ・他院治療後再発患者でも、当院でより良く治療できる手段があれば、積極的に受け入れる
 - ・治療適応を良く見極め、適切な治療中止基準の基で、早期に緩和ケア開始する

・研究上の課題

(子宮頸がん)

1. 子宮頸がんに対する化学放射線併用療法の Phase II 臨床試験
・私達が決定した推奨投与量を (weekly CDDP30, Taxol50mg/m²) を用いて多施設共同前向き臨床試験 (JACCRO、GY-01) を開始して 2 年目に入るので、これを推進する
2. 私達の自主研究 (子宮頸がん IB1 期で、長径 2cm 以上の症例に対する縮小広汎手術の feasibility 研究) は目標 20 例を越えて 45 症例を集積している。2011 年 2 月には、初めの 20 例の 2 年無増悪生存を確認して論文にまとめ、さらに、手術適応を IB1 期全体に拡大する
3. 私達が立案した、子宮頸部扁平上皮癌 Ib-IIa 期でリンパ節転移陽性症例に対する術後補助化学療法塩酸イリノテカン (CPT-11) + ネダプラチン (NDP) 第 2 相試験 [JGOG (日本婦人科がん化学療法共同研究機構) 1067] を開始して 2 年目にはいるので、これを推進する
4. 私が研究代表者を務める、子宮頸がん IB2 期、I 期を対象とした術前化学療法塩酸イリノテカン (CPT-11) + ネダプラチン (NDP) 第 2 相試験 (JGOG1065) の成績を論文発表する。続いて、扁平上皮癌にはタキソール+カルボプラチン、非扁平上皮癌にはドセタキセル+カルボプラチンを用いた術前化学療法の有効性を多施設で進展させる
5. 子宮頸がんの原因ウイルス (HPV) 感染状況を検討し、子宮頸がん予防ワクチンの有用性について発信する

(子宮体がん)

1. 小さな子宮体がんを早期に診断し、その病態像から、より確実な早期診断方法を確立する
2. 進行体がんに対する治療戦略: 標準手術ができない。(。) 局所進行例、(Γ) 腹腔内蔓延例、(J) 遠隔転移例の 3 種の病態別の至適治療戦略の開発
3. 骨髄毒性が軽い CDDP を、CBDCA に替えた新しい術後補助化学療法 DP (+ イメンド + カイトリル + デカドロン) の有用性を前向きに検討する。

(卵巣がん)

1. 進行卵巣がんに対する治療戦略: NAC → IDS の有用性の feasibility study; NAC として dose-densed TC を用いた feasibility の前向き研究を推進する。
2. 卵巣がんの三次元培養法による抗がん剤感受性試験の臨床応用
BRCA-1, 2, HNPCC などがん抑制遺伝子の発病へのかかわりを、詳細な家族歴を調べることから検討する。

前立腺センター

・診療のテーマ

1. 個々の患者の病態に最適と考えられる、patient-oriented の医療の実施
2. 患者の生活の質ならびに治療選択権に配慮したやさしい医療の提供
3. コメディカルとの協調による患者サービスの徹底

・研究のテーマ

1. 片側神経温存前立腺全摘術後の最適な陰莖リハビリテーションプロトコールの確立
2. 低リスク前立腺癌に対する待機的な前立腺全摘術の妥当性の検討
3. 当院における前立腺小線源挿入療法施行 300 例の治療成績
4. 去勢抵抗性前立腺癌に対する女性ホルモンおよびドセタキセル療法の至適投与順序の検討
5. 前立腺限局癌に対する各種治療法と縦断的 QOL 解析
6. アンドロゲン非依存性前立腺癌に対する抱合型エストロゲン製剤(プレマリン)のパイロット試験
7. ハイリスク前立腺癌に対する手術における specimen confined disease の予測因子
8. 限局性前立腺癌に対する部分治療の患者選択クライテリアの作成
9. 中間リスク前立腺癌に対する 70Gy/28 分割の短期強度変調放射線治療の安全性と有効性の検討
10. 局所進行前立腺癌の手術における 9 ヶ月間のネオアジュバントホルモン治療の有効性

頭 頸 科

・基本方針

1. 患者中心で、かつ最高水準の頭頸部がん治療の開発と実践
2. QOL の向上をめざした治療法の開発
3. 本邦における治療の最終病院としての役割の遂行
4. 他施設との連携の重視
(可能な限り治療、相談の受け入れとケア)
5. 頭頸部癌治療医の育成
(部内のみならず、外に向かっても更に開かれた部門として頭頸部治療医の育成)
6. 国内外との積極的な交流
7. チーム医療による頭頸部がん治療の新しい可能性の追求。

・研究課題

1. 頭頸部癌治療の標準化と個別化

2. 頭頸部がんに対する機能温存治療の開発
3. 咽頭癌の早期発見と内視鏡下切除の推進、適応の検討
4. 手術手技の習得のための教育的手法の検討
5. 頭頸部再建術の標準化
(良好な構音・嚥下機能のための再建方法の確立)
6. 頭頸部癌術後の QOL 向上にむけての検討
7. 頭頸部予後不良症因子の解析
8. 進行頭頸部癌の症状と機能に関する観察研究
(終末期に至る QOL 変化に関する症状の検討)
9. 無症候性微小乳頭癌の非手術経過観察:prospective study の継続
10. 甲状腺乳頭癌に対する TSH 抑制療法の効果についての RCT にともなう骨密度変化についての前向き対照試験
11. 甲状腺乳頭癌の腺外浸潤の診断、臨床的定義、予後因子としての意義についての検討
12. 甲状腺乳頭癌の独自の癌死危険度分類に基づく治療方針の確定と前向きデータの蓄積
13. 甲状腺乳頭癌高危険度郡症例に対する予防的放射性ヨード治療の効能評価 (rh-TSH の効用)
14. 甲状腺濾胞癌、遠隔転移の危険因子の解析とそれに基づく治療方針の確定
15. 有症候性微小乳頭癌の予後因子解析に基づく治療方針の確定と前向きデータの蓄積
16. 甲状腺未分化癌の prognostic index の前向き適用結果
17. 甲状腺未分化癌に対する放射線化学療法の評価
18. 甲状腺手術における術中神経モニタリングの効用評価
19. 甲状腺癌骨転移に対するゾメタ治療の効果についての前向き試験
20. 甲状腺未分化癌についての多施設共同研究(未分化癌コンソーシアム)
 - ① 予後因子と治療方針
 - ② 長期生存例の病理学的検討
 - ③ 偶発型未分化癌の検討
 - ④ 未分化癌における石灰化パターン
21. 臨床的高危険度癌×病理学的低分化癌に対する術後放射線照射の効果
22. 甲状腺濾胞性腫瘍の診断
23. 甲状腺癌におけるゲノム・遺伝子解析(東大との共同研究)
24. 甲状腺細胞診のクオリティ・コントロール
25. 転移性甲状腺癌の検討
26. 声帯機能の超音波診断
27. 甲状腺髄様癌についての臨床研究
28. 甲状腺癌頸動脈浸潤症例の検討

29. 甲状腺未分化癌に対する Docetaxel+CDDP 療法の検討

30. 甲状腺癌気管合併切除症例についての検討

整形外科

・診療のテーマ

1. 患者中心の安全な治療法の確立
2. 迅速な診断治療システムの確立
3. 海外を含む他施設との連携強化
4. 他病院小児科との連携強化

・研究のテーマ

1. 切除縁評価法の再評価
2. 再発腫瘍の至適切除範囲
3. 遺伝子解析による肉腫の悪性度分類
4. 浸潤性発育を示す肉腫の遺伝子診断と治療法の確立
5. 転移を有する肉腫に対する新規抗癌剤の多施設共同研究
6. 軟部肉腫に対する術前放射線治療の意義
7. 骨肉腫に対する化学療法(多施設共同)
8. 上肢発生軟部肉腫広範切除後の再建法
9. 血腫形成性肉腫の診断と治療
10. 静脈血栓症合併肉腫の診断と治療法
11. 肉腫組織型別の至適経過観察法
12. リンパ節転移を生じた軟部肉腫の至適治療法

泌尿器科

・診療のテーマ

1. 個々の患者の病態に最適と考えられる、patient-oriented の医療の実施
2. 患者の生活の質ならびに治療選択権に配慮した優しい医療の提供
3. コメディカルとの協調による患者サービスの徹底

・研究のテーマ

1. 腎細胞癌における染色体解析の臨床的意義
2. 40歳以下の若年性腎癌の臨床病理学的検討
3. 転移性腎細胞がんに対する分子標的治療薬の効果および副作用に関連する臨床および病理学的因子の解明

4. 泌尿器科腫瘍特異的融合遺伝子の検索 -診断および治療の分子標的としての可能性の探索-
5. 表在性膀胱癌の術後早期再発に対する術直後単回膀胱内注入療法:
テラルビシンとマイトマイシン C による再発予防効果の比較試験
6. 筋層非浸潤性膀胱癌に対する BCG 維持療法の検討
7. 膀胱全摘後の尿路変向法と縦断的 QOL 解析
8. リンパ節転移陽性尿路上皮癌における gemcitabine, etoposide, cisplatin 併用化学療法後のサルベージ手術の有用性
9. 前化学療法抵抗性進行尿路上皮癌に対する taxol, gemcitabine, cisplatin 併用化学療法
10. 上部尿路上皮癌におけるリンパ節郭清の適応と範囲

血液腫瘍科

・研究のテーマ

基礎研究

1. 悪性リンパ腫の抗体療法の耐性機序に関する研究
2. プロテオソーム/ユビキチン経路における阻害剤の開発
3. シャペロン TCP 複合体の機能とその阻害剤の開発
4. BCR-ABL チロシンキナーゼ阻害剤の耐性機序に関する研究
5. 造血器腫瘍細胞における Dlk の発現
6. 開発中の新規抗腫瘍薬 OPC-252 の患者由来腫瘍細胞を用いた ex vivo 試験系による抗腫瘍作用の検討
7. STAT3 阻害剤の抗腫瘍効果の研究

・臨床研究

1. CD20 陽性 B 細胞性悪性リンパ腫に対するリツキシマブ毎週単剤投与またはリツキシマブ併用化学療法における単位時間当たりのリツキシマブ最大耐量(最高投与速度)に関する安全性および忍容性を検証し、単位時間当たりの最適投与量(投与速度)を決定する臨床試験
2. リツキシマブと化学療法又は放射免疫療法不応・再発緩徐進行性非ホジキンリンパ腫 (Indolent NHL) 患者を対象とした Inotuzumab Ozogamicin (CMC-544) の第 II 相試験
3. リツキシマブを併用した第一選択化学療法で完全奏効が確認された poor risk びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫 (DLBCL) 患者を対象に RAD001 による補助療法をプラセボと比較するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第 III 相試験
4. 開発中の新規抗腫瘍薬 OPC-252 の患者由来腫瘍細胞を用いた ex vivo 試験系による抗腫瘍作用の検討
5. 既治療慢性リンパ性白血病患者を対象とした ofatumumab (GSK1841157) の非対照、非盲検、

第 I / II 相臨床試験

- 自家造血幹細胞移植に適格な、再発／治療抵抗性の CD22 陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫患者を対象とした Inotuzumab Ozogamicin＋リツキシマブの非盲検、単一群、第 II 相試験
- 大塚製薬との共同研究で、骨髄腫、再発リンパ腫における作用を検討する

・診療のテーマ

- 悪性リンパ腫の標準治療法の改良
- 難治性リンパ腫の新規治療法の開発
- まれな白血病/リンパ腫の治療法の開発
- 日本における骨髄腫治療の標準化
- チームによる新薬導入

【 癌総合治療部門 】

化学療法科

・研究のテーマ

- 新抗癌剤の臨床研究
- 乳癌の化学療法と遺伝子解析
- 悪性腫瘍の骨転移臨床研究
- 循環血中腫瘍細胞と内皮細胞の測定と意義
- がん幹細胞のイメージング研究

・診療のテーマ

- 臓器別、層別化診療の推進を行う。
- できるだけ外来治療を中心とする。外来治療を他施設から見学出来るようにする
- 分子標的治療の推進:特にハーセプチン、リツキシマン、グリベック、ベルケイドの治療を短期入院および外来治療を推進する
- まれな疾患でも末梢血幹細胞移植や大量化学療法、集学的治療を積極的に推進する。ただし選択、集中する。
- 原発不明癌についてはほぼプロジェクトが終了し、標準化されたので、他の施設への指導に移行する
- 薬剤師、看護師との協調でチームによる新薬の導入を行う。

放射線治療科

・診療のテーマ：診療上の課題：放射線治療患者増加への対応と高精度放射線治療の実施

1. 放射線治療計画の体系化
2. 前立腺がんのIGRT・VMAT
3. 頭頸部がんのVMAT
4. 子宮頸がんのHDR組織内照射
5. 食道がん肺がん直腸がんなどの化学放射線療法
6. 椎体骨転移における再照射定位照射

・研究のテーマ：研究上の課題：移動する標的に対する放射線治療の検討

1. 小線源治療に関する研究
 - a) Image-guided brachytherapyの研究
2. 外部照射に関する研究
 - a) VMATの検討
 - b) IGRTの検討
 - c) 前立腺がんの寡分割照射
 - d) 乳がんの加速部分照射
 - e) 放射線治療効果と低酸素細胞の関連性：放射線医学総合研究所と共同研究
 - f) 新しい治療計画支援ソフトの検討

免疫・遺伝子治療科

・研究のテーマ

なし。

・診療のテーマ

1. ワクチン療法の患者リクルート

【 一般診療部門 】

総合内科

1. 他科との連携のもと、担癌患者における以下にあげる疾患の診断・治療循環器疾患、内分泌疾患、糖尿病、水電解質、骨代謝異常
2. ベストケアプロジェクトの継続実施
3. 術前術後患者の循環器機能のチェックと管理指導
4. 化学療法前後患者の循環器機能チェックと管理指導

5. 術前術後患者の内分泌代謝機能のチェックと管理指導
6. 術前術後糖尿病患者の管理指導
7. 担がん患者に対する漢方サポート治療の推進
8. 心毒性抗がん剤による心筋障害(駆出率)とBNPの動きに関する分析
9. 薬剤性心筋障害に対するACEおよびARBを用いた治療の有効性の検討
10. アントラサイクリン及びハーセプチン使用患者経過観察での適正評価検査の検討
(胸部心胸郭比、心電図、心エコー、BNPを比較する)

腫瘍精神科

1. 外来通院中・入院加療中の患者さんとそのご家族の不安障害などの精神疾患に対処する
2. 薬物療法を主とした医学的対処、腫瘍精神科専任看護師による支持的面接を行う
3. がんの精査中、治療中、リハビリ中、再発、進行期などあらゆる時期の紹介を受付ける

一般外科

1. 癌研有明病院に通院中あるいは入院中の患者で、一般外科の範疇に入る疾患についてのコンサルテーションや、暫定的な治療を行う
2. 癌研有明病院周辺で発生した緊急的一般外科、切創、打撲、擦過傷などの診療にあたる
3. 癌研の職員の一般外科的な疾患について診療する

形成外科

・診療テーマ

- 癌患者の QOL 向上を目指した再建術の確立
- 個々の患者の状況に応じたオーダーメイド医療の確立
- 各科に対応した迅速で安全なチーム医療の確立
- 癌研独自の高度な再建手技の確立
- 海外を含む他施設との連携強化

・研究テーマ

1. 皮弁再建の術後機能評価(他施設共同)
2. 皮弁採取部の術後機能評価(他施設共同)
3. 四肢軟部悪性腫瘍再建の標準化
4. 機能的四肢再建治療の確立
5. 一期的乳房再建法の標準化

6. 自家組織乳房再建法の確立
7. 乳房再建後の術後評価法の確立
8. 脂肪幹細胞移植による乳房変形の治療
9. 顔面神経麻痺における再建法の確立
10. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合治療

眼 科

1. 眼部悪性腫瘍に対する根治が得られ、かつ整容的な治療法の検討
2. 外眼部腫瘍に対する手術・再建
3. 眼内腫瘍・転移巣に対する手術・放射線療法
4. 眼内・眼窩悪性腫瘍および頭頸部からの浸潤例に対する眼窩内容除去術後における眼窩の再建および義眼床の作製による術後の義眼装着
5. 網膜の病態に関するエリスロポイエチンなどの体内因子の研究
6. 涙器疾患に対する外科的治療
7. 頭蓋内、頭蓋底および眼窩腫瘍・浸潤例による視覚障害の早期発見・治療、Humphrey 視野計、Goldmann 視野計、Hess co-ordimeter の活用など
8. 眼内・眼窩悪性腫瘍および頭頸部からの浸潤例に対する術後の鼻涙管の再建
9. 担癌患者に対する白内障手術など、Quality of Vision への貢献
10. 眼瞼・結膜腫瘍の診療体制確立:腫瘍取扱い規約および診療ガイドライン作成へ向けての研究

歯 科

1. 化学療法時における歯科検診システムの確立
2. 頭頸部領域における放射線照射後の障害に対する予防法の検討
3. 周術期患者における口腔ケアの確立
4. ビスホスホネート製剤による顎骨壊死の予防と抜歯基準の検討

緩和ケア科

1. EBM に則った本邦の症状緩和ガイドラインの作成
2. 新規オピオイド鎮痛薬の治験
3. 予防的緩和ケアの概念の構築
4. 再発・転移がんにおける症状発現時期の prospective なモニタリングと緩和ケア科の介入時

期と方法による症状緩和率の検証

5. 当院における教育カリキュラムと診療ガイドラインの作成

・診療のテーマ

1. 癌研では初の緩和ケア科による緩和ケア外来、緩和ケア病棟、緩和ケアチームの診療システムの構築と周知
2. 電子カルテによる病棟や外来との迅速なアクセスに基づいた各診療科と緩和ケア科の早い時期からの連携と円滑な緩和ケア科への移行
3. 他職種との円滑なチーム医療の遂行
4. 緩和ケアに関するレジデントや学生への教育
5. 正しい緩和ケアのあり方に関する国民への啓蒙

麻酔科(ペインクリニック)

1. 高質な麻酔科診療
 - 術前・術中・術後の一貫した診療、安全確保
2. 麻酔科・中央手術部の効率的運営
 - 臨床教育、人材確保、緊急症例への対応
3. ペインクリニック診療
 - 術後痛・癌性疼痛管理、緩和ケアチームとしての活動
4. 麻酔科外来診療の充実:患者数増加
5. 集中治療部(ICU/HCU)への参画

【 中央診療部門 】

画像診断部

・研究課題

1. 卵巣悪性腫瘍のMRIによる組織分類の検討
2. MRIによる子宮頸癌の腫瘍径と進展度診断の確立
3. 非触知乳癌の同定と治療法に関する検討(乳腺科との共同研究)
4. 乳房内のMRI検出病変に対するMRIガイド下針生検法の開発
5. 泌尿器癌のCT、MRIによる組織診断および進展度診断の検討
6. 頭頸部癌におけるCT・MR診断能向上の検討
7. 癌診療におけるIVRの拡充
8. 積極的緩和医療におけるIVRの意義に関する検討

9. 80列MDCTの臨床応用についての検討

核医学部

・診療のテーマ

1. ポジトロン検査(PET および PET/CT)の推進
2. 骨転移に対するストロンチウム治療の推進(放射線治療科などと共同)
3. 再発・難治性低悪性度 B 細胞リンパ腫に対する放射免疫療法の推進(血液腫瘍科などと共同)
4. 残存甲状腺破壊を目的とした I-131 による外来治療

・臨床研究のテーマ

1. 骨転移診断法:骨シンチグラフィと FDG-PET の比較検討
2. 骨転移診断法:フラクタル解析の有用性
3. 各疾患における FDG-PET の有用性の検討:
特に悪性リンパ腫と婦人科癌での臨床的有用性
4. 遺伝性腫瘍のサーベイランスにおける FDG-PET の有用性(遺伝子診療センターと共同)

超音波検査部

1. 高周波探触子を用いた鎖骨下静脈カテーテル関連血栓の検討
2. 超音波造影剤ソナゾイドを用いた肝腫瘍の診断能向上に関する検討
3. 頸部胸部境界領域の超音波診断に関する検討
4. 乳腺超音波検査の精度向上と効率化に関する検討
5. 乳腺、甲状腺など表在臓器の超音波ガイド下穿刺吸引細胞診の精度の向上に関する検討

内視鏡診療部

・診療のテーマ

1. 安全で苦痛のない内視鏡検査・治療の確立
2. 診断の向上と迅速な対応
3. 偶発症の予防と対策の推進
4. チーム医療の確立

・研究のテーマ

(上部消化管)

1. 早期食道癌の診断・治療法の確立

2. 早期胃癌の EUS 診断の精度向上に関する研究
3. NBI拡大内視鏡を用いた未分化型癌粘膜内浸潤度との対比
4. NBI拡大内視鏡を用いた早期胃癌、SM癌の診断
5. NBI拡大内視鏡を用いた表在型バレット食道がんの診断
6. 胃癌術後患者における食道バレット粘膜進展の検討
7. バレット食道柵状血管観察時の通常電子内視鏡所見とNBI拡大内視鏡所見の差異の検討
8. 早期胃癌ESD後異時多発癌における背景粘膜の検討
9. 進行胃癌術後患者に対する抗癌剤感受性試験
10. 胃癌術後患者の QOL 改善のための漢方薬の有用性の検討
11. 微小癌の診断法の確立
12. 未分化早期胃癌における増殖帯進展の病理学的検討
13. SM 癌に対する全層切除法の開発
14. SM 癌におけるリンパ節転移例のゲノム解析

(下部消化管)

1. カルチノイド腫瘍の診断と治療法の確立
2. 大腸癌の発育進展に関するゲノム解析
3. 大腸腫瘍の NBI、拡大観察診断の確立
4. 大腸腫瘍の内視鏡的治療法の検討
5. 大腸早期癌の内視鏡的治療後の長期経過観察の検討
6. 大腸腫瘍に対する ESD 治療手技の確立。
7. 放射線腸炎に対する APC 療法の長期経過観察の検討
8. colitic cancer, dysplasia の早期診断の確立
9. HNPCC 例のサーベイランスの検討
10. FAP に対する内視鏡的治療の有用性の検討
11. 11. 2cm 以下の大腸癌の解析から見た大腸癌発育進展の検討
12. 非上皮性腫瘍の超音波内視鏡による診断と FNA 診断との比較検討。

外来治療センター(ATC)

・診療のテーマ

1. 新規薬剤の早期導入
2. 標準治療の安全性確立
3. 専門看護師、専門薬剤師の研修と外部への見学によるマネジメント確立
4. チーム医療の確立、効率化
5. ATC における服薬指導の向上

6. 看護師による点滴確保
7. 患者指導および患者意識の調査研究を開始する。

遺伝子診療センター

・診療テーマ

1. がんの遺伝子診療および遺伝カウンセリングシステムの構築
2. がんの易罹患性に関わる遺伝子変異保有者に対する癌の予防および診療各科と連携した生涯にわたるサーベイランスの確立
3. 一般集団も含めた遺伝子に関する情報提供の窓口としての機能の充実
4. 診療各科と情報を共有できる遺伝子診療記録の考案
5. 各科共通に使用できる家族歴聴取のチャート作成

・研究・教育テーマ

1. 研究としての精確な遺伝子診断の実施(受託検査で対応できない検査の実施)
2. 婦人科、乳腺科と連携した BRCA1/2 変異陽性者に対する予防的両側卵巣卵管切除術の有効性、安全性に関する臨床試験
3. 既知の範疇にはない癌多発家系における原因遺伝子の同定
4. 一般市民へのがんの遺伝に関する適切な認識の普及、教育
5. 遺伝カウンセラー・遺伝子検査担当者等の遺伝子診療関係者の人材育成

集中治療部

1. 集中治療部は、重症患者さんの集中治療を集中治療室(ICU/HCU)で行う為に必要な設備や人員を支援する
2. 集中治療室(ICU/HCU)は、中央診療部門として重症患者さんに適した入院治療を 24 時間体制で行う
3. 集中治療部設備のための指針(2002)を参考に、高度な集中治療やハイケアに必要な設備や人員を増強し充実させる。同時に、当院独自の「がん集中治療」を支援する。
4. 集中治療室の整備
 - ・多臓器障害への集中治療に必要な設備や物品整備
 - ・集中治療部スタッフの数的・質的向上
 - ・集中治療部スタッフと各科担当医、ME センター、院外専門医療機関等との連携強化
 - ・集中治療病床の有効利用推進(第二次救急医療機関専用ベットを含めHCU16 床・ICU8 床、計 24 床を母数とする目標病床稼働率 70%以上の維持)

5. 集中治療部の活動

- ・院内・院外の癌救急支援
- ・一般救急の診療体制支援
- ・スタットコール体制支援
- ・緊急救命(全身管理)チーム支援

救 急 部

1. 救急部は、救急機能や災害対応の専門部門として、救急外来診療、院内救急対応、災害対応の中心として活動する
2. 当院が平成21年1月1日付で、日本救急医学会から救急科専門医指定施設に認定されたことを受けて、救急医療体制と災害対応体制について、地域医療に貢献すべく院内各部署や、院外緒機関の連携維持を強化する。
3. 救急部運営委員会・「救急ワーキンググループ」(QW)による救急部運営体制の維持
4. 救急外来診療
 - ・癌救急(Oncology Emergency)の実行・研修・研究活動の充実
 - ・「がん診療連携拠点病院」の救急部門としての救急業務の実施
 - ・救急科専門医指定施設・消防庁救急相談医派遣医療機関・救命士再教育医療機関としての救急医療・研修・研究体制の維持
 - ・地域救急医療システムでの協力連携体制の維持拡充
とりわけ、「開放病床」における急性期診療体制の確立
 - ・東京都による「島しょ救急患者搬送(ヘリ搬送)業務」協力体制整備
 - ・一般市民を対象とした応急処置や救急蘇生法教育
 - ・医師・医療関係者を対象とした JATEC, ICLS 等へのインストラクター活動の維持充実
 - ・平成21年度に2回開催された ICLS コースのサイト化、維持充実。
5. 院内救急対応
 - ・院内救急体制の維持整備
 - ・スタットコール体制維持整備
 - ・緊急救命(全身管理)チーム体制の機能整備
 - ・医療従事者を対象とした救急対応法研修
 - ・全身管理知識の普及活動の維持
6. 災害対応
 - ・自衛消防との院内災害対応連携。
 - ・「地域災害拠点病院」としての機能充実と人員整備
 - ・「医療救護班」の維持、充実

- ・江東区、東京都、首都圏災害体制参画:とりわけ江東区医師会防災部会における地域防災活動への参画活動
- ・院内災害対応訓練、広域災害想定訓練
- ・災害対応ワークショップ、セミナー開催

【 臨床検査部門 】

病 理 部

1. 形態と遺伝子情報の総合の上に立つ病理診断学の研究と実践
2. 縮小手術の適応条件に関する研究と診断への応用—特に乳癌、消化管癌、肺癌について
3. 迅速診断への分子病理診断の応用—特に OSNA 法の乳癌, 大腸癌, 肺癌への適用
4. 融合遺伝子を有する癌の病理診断学的研究—特に ALK 融合遺伝子肺癌について
5. 癌の悪性度と治療感受性指標の研究—特に tyrosine kinase と PI3K, および神経内分泌性に注目して
6. 抗癌剤の効果判定に関する病理学的研究
7. 癌好発状態の研究—特に前癌状態、癌好発症候群 (HNPCC、Werner 症候群等) について
8. HPV 感染が関与するがんの研究—特に婦人科がん、肛門管がん、頭頸部がんについて
9. 臨床各科の conference への病理学的寄与
10. Ganken Tissue Bank の運営と検体の諸研究への提供
11. 医療ミスを根絶させるための、作業・診断マニュアルの完成と実践

臨床検査第 I 部

1. より高い医療水準の達成と効率的な検査オーダーの両立、およびその評価体制構築への寄与
2. 検体検査業務
 - 報告時間短縮のためのあらゆる効率化、中間検体処理作業改善
 - 適切な院内検査化による報告時間短縮および経費節減
 - 徹底した効率化を追求しつつも、時間外も含めて高精度を保持する体制の堅持
 - 新規検査項目の積極的なオンライン化による医療および経済面への貢献
 - 術中迅速 PTH 検査による副甲状腺手術のサポート
3. 採血業務
 - 1) 適切な接遇の習得と不断の実行
 - 2) 採血技術の向上
 - 3) 患者取違え完全防止策の確立
4. 生理検査業務

- 1) 手術数増加およびDPC導入に対応する呼吸機能および負荷心電図検査体制の整備および確立
- 2) 新規検査項目導入による医療および経済面への貢献
5. チーム医療における臨床検査部の役割
 - 1) パニック値報告システムのさらなる改善とその運用による医療への貢献
 - 2) ベストケアプロジェクト症例の病態解析への関与
 - 3) NST への積極的参加と検査値の解析
 - 4) ICT への積極的参加と細菌検査結果の解析
 - 5) 非特異的反応などによるはずれ値の解析による医療への貢献
6. 検査に関する問い合わせあるいは要望に対する迅速かつ適切な対応
7. 各部門間の技師ローテーションによる教育と検査技術の向上
8. 治験および臨床研究への貢献

臨床検査第Ⅱ部

1. 安全な輸血を安定供給するための検討
2. 輸血による副作用の原因・追跡調査・予防法の検討、改善
3. 輸血患者遡及調査の実施、改善
4. 廃棄血液「ゼロ」に向けての取り組み
5. 血液照射装置の活用、実施
6. 輸血検査自動化についての検討
7. 夜間緊急体制(当直制)実施に向けての検討
8. 病床数増床にあたっての増員

臨床検査第Ⅲ部

1. 遺伝性癌の生殖細胞変異解析
APC, BRCA1, BRCA2, RET, MLH1, MSH2, p53 など
2. 大腸癌のリンパ節転移診断
3. 膵液などに含まれる細胞の DNA を用いて膵臓癌の補助診断
4. 固形癌(大腸癌、乳癌など)を中心とした抗癌剤感受性予測診断の確立
5. Microsatellite Instability(MSI)の解析
6. 遺伝性非腺腫性大腸癌(HNPCC)や多重癌のリスク診断
7. 子宮頸部前癌病変の HPV-DNA 診断
8. 癌研ゲノムプロジェクトにおける臨床材料、個人情報などの収集・保管の拠点

9. 胸腔洗浄液の胸腔内微小転移検出の臨床研究

細胞診断部

1. 安全かつ低侵襲で精度の高い細胞診検査を、病院施設としては全国で最多数実施する
2. 日本臨床細胞学会「細胞診認定施設」の認定を所定の施設基準を満たすことにより継続する
3. がん専門病院として蓄積された豊富な資料と経験に基づき高精度な細胞診断を行う
4. 精度を保証するため、陰性例の 10%ダブルチェック、穿刺細胞診陰性例のダブルチェック、陽性例のトリプルチェック体制を維持、励行する
5. 細胞診領域の先端技術である液状化検体細胞診(LBC)を導入し、ルーチンで診断に使用する
6. 細胞診検体(LBC 等)を用いて免疫染色への応用に関する研究を行い、診断精度の向上をすすめる
7. 細胞診検体(LBC 等)を用いて分子生物学的研究(遺伝子解析)を行い、形態と遺伝子情報の総合の上につ細胞診断学の研究および実践を行う
8. フローサイトメトリー等を活用した細胞診スクリーニング補助システムの開発評価研究をすすめる
9. 社会貢献として内外から評価が高い、専門の優秀な技術者を養成する「細胞検査士養成所」の運営を継続する

健診センター

1. 増大する健診希望者に対応した健診枠の拡大
2. 早期癌の診断に有用なヘリカル CT による肺癌の検診精度の向上
3. 表在癌の検出による早期食道癌の検診精度向上
4. 微小・表在癌の検出による早期胃癌の検診精度向上
5. 大腸癌の検診精度の向上
6. 乳癌の検診精度向上
7. ヒトパピローマウイルス(HPV)検査の活用による子宮頸癌の検診精度向上
8. PET 検査導入による腫瘍スクリーニング検診の推進
9. 腫瘍マーカーp53 の臨床的意義の検討(研究)推進
10. 子宮頸癌予防ワクチン普及に協力し、子宮頸癌予防に貢献する

新薬開発臨床センター

1. 新規薬剤の治験の推進、とくに第一相
2. CRC 業務の推進と増員、外部 CRC の受け入れ
3. 開発中薬剤の情報収集とコンサルティング
4. SDV を始めとする調査業務のスピード化
5. 海外と共同治験の実施
6. 治験担当薬剤師、検査技師の確保
7. 治験薬保管スペースの確保、

臨床研究センター

医療に寄与する「臨床研究病院」として更なる発展を期する

1. プロジェクトと研究の推進
2. 創造的・横断的テーマの餞別

薬 剤 部

1. 調剤業務
 - 1) 正確な調剤
 - 2) 正確な抗がん薬および一般注射薬の混合調製
2. 管理業務
 - 1) 麻薬・向精神薬、毒劇薬、ハイリスク薬等特定薬品の管理
 - 2) 病院経営を意識した医薬品の在庫管理
 - 3) 安全ながん化学療法実施のためのレジメン管理
 - 4) 医薬品敵勢使用のための医薬品情報管理
3. 服薬指導業務
 - 1) 入院患者に対する薬学的ケアの拡充
 - 2) 外来化学療法室における薬学的ケアの実践
4. 教育・研究業務
 - 1) がん専門薬剤師・がん薬物療法認定薬剤師の育成
 - 2) がん薬物治療の専門性を高める教育と研修
 - 3) がん専門薬剤師研修、実務実習研修生の受け入れ
 - 4) がん化学療法患者の副作用軽減に関する研究
 - 5) 抗がん薬の職業曝露に関する研究

看護部

・基本方針

1. 患者さんを全人的にとらえ、個別的・継続的な看護を実践します。
2. 患者さんの人権を尊重し、安全かつ質の高い看護を実践します。
3. 多職種チームの一員として責任を果たします。
4. 品格があり、自律した行動がとれる人間性豊かな看護職員を目指します。

・活動目標

1. 看護実践能力の向上に努める。
 - ①看護技術の向上
 - ②フィジカルアセスメント能力の向上
 - ③安全な看護の実践
 - ④固定チーム継続受け持ち制の充実
 - ⑤新人看護師教育支援体制の強化
2. 新看護体制により看護部組織の強化を図る。
 - ①執行部体制の導入と実施
 - ②委員会活動の見直しと充実
2. やりがいのある職場環境をつくり看護師の定着を図る。
 - ①退職率の低減
 - ②優秀な人材の確保
 - ③意見交換ができる職場風土づくり
 - ④業務の見直しを行い働きやすい職場づくり
 - ⑤研修・学会等への積極的参加
 - ⑥看護研究の推進

栄養科

1. 患者サービスの向上について
 - ・患者サービスの更なる向上を目指す
 - 1) 献立の内容・質の更なる改善
 - 2) がん専門病院として相応しい食種の拡充
2. 入院・外来栄養指導の更なる拡充
 - 1) 下部消化管の栄養指導の更なる充実・実施

- 2)糖尿病外来の栄養指導の積極的実施
- 3. 入院患者の栄養サポートの拡充(栄養管理計画書の充実)
 - 1)ベッドサイドでの栄養管理の充実(平成 22 年度から診療報酬で新設された「栄養サポートチーム加算」で栄養士中心のNST活動を積極的に行っていく)
- 4. 衛生管理の更なる徹底
- 5. 栄養業務の更なる改善・向上の検討
 - 1)栄養士・調理師の更なる技術・意識の改革
 - 2)学会・研修会への積極的な参加
- 6. コストの削減の更なる徹底
- 7. 消化管術後の食事ガイド・レシピ集の作成
- 8. 脱臭食の研究

【 医療支援部門 】

医療支援センター

がん診療連携拠点病院に求められている社会的責任(CSR)を果たすために、専門チームによる連携支援体制を構築し、患者さん・ご家族のみならず院内・院外全ての関係者へ具体的支援を実施する

QI室(クオリティ・イノベーション)

- 1. 臓器別がん診療ガイドラインの改訂
- 2. 臓器別がん看護ガイドラインの策定
- 3. ご意見箱に対する対応・改善;反復する質問に対する回答を作成し、すぐに読んでいただけるようにする
- 4. 患者満足度調査・研究
- 5. 職員満足度調査・研究
- 6. 接遇改善に向けた計画立案
- 7. BSCとの連携による調査分析
- 8. クオリティインディケータの作成
- 9. 慰霊祭の実施
- 10. 慰霊祭の今後のあり方の検討
- 11. 電話による苦情相談の対応システム構築
- 12. 患者配布用のパンフレットと院内掲示の見直しと整合性をとる